

飛節カバーのススめ

診療で牛を診ているとき、何か治療に使えるようなものが作れないだろうかと考えることがよくあります。また、冬場に子牛が手作りのジャケットを着ているのを見たりすると、何となく温かい気持ちになります。

今回の家畜技術情報では（技術情報というような大したものではありませんが）牛の飛節に巻くカバーの作り方を紹介したいと思います。

飛節周囲が化膿して穴があいてしまったような牛に、今まで伸縮性の接着包帯を巻いたりしていたのですが、次の日には見事にずり落ちてしまっていたり。そんな悔しい思いから、飛節に巻くカバーを縫ってみました。物作りが好きなお母さん（お父さんでも）、もし家に飛節を痛めた牛がいるようでしたら、作ってみませんか。ミシンで縫うと丈夫ですが、手縫いでもできます。化膿した傷は洗浄し、ワセリンを塗ってガーゼを当て、このカバーを巻きます。場合によっては抗生剤も使っています。

材料はどちらも100円ショップで手に入ります。市販されている飛節カバーは、ちょっと値段が高い・・・という方も、これは200-300円でできるので、おしみなく使えるのではないのでしょうか。

材 料

- ・人の膝用のサポーター（筒状のもの）
クッション材が付いているとよい
- ・人の膝用のサポーター（バンド状のもの）



作り方

1. 筒状のサポーターに切れ目を入れ一枚の布にする
2. 切ったところは3つ折りにして縫う
3. バンドの縫い目をほどき、2本に分ける
4. この時マジックテープの片方をほどいてはずす
5. バンドを放射状に縫いつける
6. 反対側の部分に、はずしておいたマジックテープを縫いつける
7. 脚の細い牛は下側になるバンドを短めにするとよい

完成!!

巻いてみたところ

脚の太さ、飛節の角度にもよりますが、少しきつめに巻くとずれません

次は、鶴居診療課の米澤さんにバトンタッチします。

（鶴居診療課 三浦 彬江）